



7 3  
6628  
8





地方凡成錄卷之七

二



加支册類族一件權多班介上官廷若過實苑  
紀陸地月濟國所通至散等

凡三十四條



























新加支丹の郡族山生

一 何之伊 河野河内郡 昔河内月山生

河野河内郡 河野河内郡

有國郡族河内郡山生

主号月日

宛所

何来七下

中河内郡族河内郡山生

一 何回河内郡族河内郡山生

新加支丹の郡族山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

主号月日

何回河内郡

准

准

准

准

河内郡

河内郡

新加支丹の郡族山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

主号月日

何回河内郡

准

河内郡

河内郡

主号月日

一 何回河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生

河内郡族河内郡山生



















徒居布の帛料の均分内取の事

其の相續の要の事の内取の事  
其の相續の要の事の内取の事  
其の相續の要の事の内取の事

一 二季の帛料の内取の事  
其の相續の要の事の内取の事  
其の相續の要の事の内取の事

以上  
言保事中心 取此の内取の事

賞

一 取此の内取の事  
一 取此の内取の事  
一 取此の内取の事  
一 取此の内取の事  
一 取此の内取の事

申上

先建の内取の事  
先建の内取の事  
先建の内取の事

内取布の事

賞

一 取此の内取の事  
一 取此の内取の事  
一 取此の内取の事  
一 取此の内取の事  
一 取此の内取の事

申上

○ 取此の内取の事

其の相續の要の事の内取の事  
其の相續の要の事の内取の事  
其の相續の要の事の内取の事  
其の相續の要の事の内取の事  
其の相續の要の事の内取の事



都の南中百餘里に及ぶ。其の地は

一 殿内法皇の御孫に於て是の地を以て

後醍醐天皇の御孫に於て是の地を以て

左大臣の御孫に於て是の地を以て

遠の御孫に於て是の地を以て

の御孫に於て是の地を以て

されしは其の御孫に於て是の地を以て

あはれしは其の御孫に於て是の地を以て

等しは其の御孫に於て是の地を以て

是れは其の御孫に於て是の地を以て

中流の御孫に於て是の地を以て

とありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

りしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

ありしは其の御孫に於て是の地を以て

○ 藤原氏の事

藤原氏の事

藤原氏の事

藤原氏の事

藤原氏の事

藤原氏の事

藤原氏の事

藤原氏の事

藤原氏の事

藤原氏の事











































世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて  
存するに由りて是れ神の御恩に依りて

海定二座所 書上り出板

一 是座所也有る所の二座所也其の事也

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

一 是座所也有る所の二座所也其の事也

世に於ては神の御恩に依りて

存するに由りて是れ神の御恩に依りて

世に於ては神の御恩に依りて



















世有厚文あり書信三法能改其の而も亦其出如也  
文の成光出母の書信更由り

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

員

武蔵國村

赤野村

武蔵國村

赤良村

武蔵國村

長法村

武蔵國村

同村

武蔵國村

名取村

武蔵國村

三浦村

武蔵國村

上西井村

武蔵國村

上西井村

右の又之山中車能勝也

右の又之山中車能勝也

三月

而却是也

養正中下

二番打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

一 洗能手洗

武蔵國村

川名村

一 洗能手洗

武蔵國村

永田村

一 洗能手洗

武蔵國村

菊田村

右二村洗能手洗

此の書信は武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

右の又之山中車能勝也

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

天明八年甲申三月

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書

武蔵國村に雲打洗能方南浦居書



のふまに建地所

川名村

永田村

日廻り部

日廻り部

日廻り部

日廻り部

本村の地味も亦面分の地味も亦別荘改定迄二村  
御座る是れ田圃と荒れ地の中買戻り二番手田圃  
地味打上り田圃月方有限打上り地味打上り田圃  
の地味打上り田圃

中七月

日廻り部

市きくは田圃打上り田圃打上り田圃改定迄  
田圃打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄  
田圃打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄  
田圃打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄  
田圃打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄  
田圃打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄  
田圃打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄  
田圃打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄  
田圃打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄  
田圃打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄

一 地味打上り田圃打上り田圃打上り田圃改定迄







右集市川由國不陸地を多し舟曳入たる道  
天明七年六月陸子長陸地を多し市川岸所を  
以り陸地を多し舟曳入たる道  
舟曳入たる道

一 舟曳入たる道  
舟曳入たる道

一 舟曳入たる道  
舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道

舟曳入たる道



後改可取祖地早の唐村陸地絶たす者於ては  
得取可出放

一 陸地絶たす補のり口十里四方并中田常のり口山麓史殿  
二 改口河入法より有るり口限の改り

一 陸地絶たす要するり口の改り口相違止り口号之料  
各口改り改り合有るり口并村中より急言者付

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たすのり口有るり口号之料

一 寛政五年七月同日月陸地絶たすのり口有るり口号之料  
之料 陸地絶たす

一 丹波郡限分り陸地絶たすのり口有るり口号之料  
之料 陸地絶たす

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす

七月三日

書也 色うらむる

島原郡 伊予郡

一 寛政五年七月同日月陸地絶たすのり口有るり口号之料  
石川丸屋持世様御下

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす

一 陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす  
陸地絶たすのり口有るり口号之料 陸地絶たす



























江州 飛騨 上方 鹿根 鹿

右 倭 國 所 以 名 爲 中 國 也

相 州 相 州 原 上 方 鹿 根 鹿 中 國 東 城

上 州 大 野 大 野 鹿 根 鹿 上 州 鹿 根 鹿

同 州 南 放 上 州 鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

上 州 大 野 大 野 鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

大 野 大 野 鹿 根 鹿

法 州 少 野 鹿 根 鹿 上 州 鹿 根 鹿

法 州 少 野 鹿 根 鹿 上 州 鹿 根 鹿

江 州 鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

右 倭 國 所 以 名 爲 中 國 也 鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿

鹿 根 鹿 中 代 鹿 根 鹿







國和子刑と之由書

一 新河河坂

一 陣尼寺 徳川家御用の御用所の御用所

一 厄 寺の御用所

一 比呂厄 寺の御用所

一 撥和 寺の御用所

一 小女 寺の御用所

一 乱公 寺の御用所

一 子員 寺の御用所

一 因入 寺の御用所

一 首 寺の御用所

一 死骸 寺の御用所

本通子刑と之由書 徳川家御用所  
改作 徳川家御用所  
一 厄 寺の御用所  
一 比呂厄 寺の御用所  
一 撥和 寺の御用所  
一 小女 寺の御用所  
一 乱公 寺の御用所  
一 子員 寺の御用所  
一 因入 寺の御用所  
一 首 寺の御用所  
一 死骸 寺の御用所  
貞享三年七月十日 徳川家御用所

寺御用所

由所

内書

人改中

元禄子中改書

國和子刑と之由書

一 撥和 寺の御用所

一 小女 寺の御用所

元禄三年己十月十日

寺御用所

長門寺

寺御用所

丹波寺

人改中

本通子刑と之由書 徳川家御用所

賞

一 入中







契天子判也者事也山陽府内自是世又り書は三度也  
諸州治るる上由成先由りり山陽府内在是し所  
由成り世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也

世書也るる諸島々先是地也山陽府内自是世又り書は三度也  
十族ありて由是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
地書也下是地也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也

一 戦後二回一入女并國人於之田圃之自判る由也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也

後々亦書之橋入國人之由代所入るる也又推し得り  
自判るる由也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也

一 戦後二回一入女并國人於之田圃之自判る由也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也  
山陽府内自是世又り書は三度也山陽府内自是世又り書は三度也

三月十日  
柳原武敏大南依  
山陽府内自是世又り書は三度也











